

第2章 西川町の地域特性

2.1. 位置・地勢

西川町は、山形県のほぼ中央に位置し、県庁所在地である山形市の西方 32km に位置します。磐梯朝日国立公園の朝日連峰や月山とその支脈に囲まれており、総面積の約 95%が山地です。平地は、町を流れる寒河江川沿いと、その支流沿いにわずかに広がっており、可住地面積は 12.55km² (3.2%) にすぎません。

表 2-1 面積と位置

項目	概要
面積	393.23km ²
範囲	東西 24km
	南北 33km
最高地	月山 1,984m
最低地	稲沢 145m
役場の位置	東経 140度9分1秒
	北緯 38度25分26秒
	標高 198m

出典：西川町町勢要覧 2005 資料編

表 2-2 土地利用の現況（平成 16 年度）

区分	面積	割合
総面積	393.23km ²	100.0%
田	5.53 km ²	1.4%
畑	2.93 km ²	0.8%
宅地	1.91 km ²	0.5%
山林	333.18 km ²	84.7%
原野	6.78 km ²	1.7%
その他	42.90 km ²	10.9%

出典：西川町町勢要覧 2005 資料編



図 2-1 西川町位置図

2.2. 気象

西川町の位置する最上川流域の気候は、はっきりとした四季の変化を有しており、全体としては日本海岸式気候に属します。内陸部は、降水量が少なく気温較差の大きい盆地性気候です。

年間降水量は、最上川流域平均で約 2,300mm、山地の影響により地域的な偏りが大きく、月山、鳥海山、飯豊・吾妻山系は、年間約 2,500mm 以上と降水量の多い地域域となっており、村山盆地一帯は、約 1,500mm 以下と少ないです。

西川町の年平均降雪量（昭和 48 年～平成 15 年における下記の観測地点の平均）は、1,529cm であり県下有数の豪雪地帯となっています。

表 2-3 気象（平成 16 年 12 月～平成 17 年 3 月）

観測地点	降雪初日	最深積雪	最低気温（極地）	2月の最低気温の平均
海味	12月17日	126cm (2月4日)	-8℃ (1月24日)	-2.6℃
本道寺	12月17日	254cm (2月24日)	-11℃ (1月24日)	-4.0℃
大井沢	12月17日	325cm (2月24日)	-15℃ (1月24日)	-6.1℃
志津	12月1日	660cm (3月14日)	-12℃ (1月24日)	-7.1℃

出典：西川町町勢要覧 2005 資料編

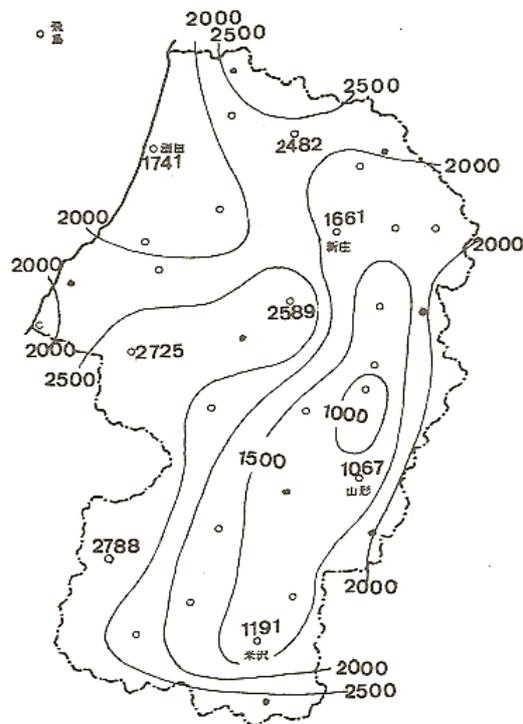


図 2-2 年間降雨量線図（1981～1990 年：単位 mm）（出典：最上川水系河川整備計画）

2.3. 人口

2.3.1. 総人口・世帯数

西川町の人口は、寒河江ダムの工事期間中である昭和 55～60 年に一度増加しますが、その後一貫して減少傾向にあり、平成 17 年 4 月 1 日現在 7,144 人（住民基本台帳）であり、昭和 25 年時の人口 15,527 人の約 2 分の 1 以下にまで減少しています。昭和 30 年代当時は、基幹産業として銅を中心とした鉱山が 10 箇所以上ありましたが、40 年代半ばには全て閉山し、鉱山従業者など約 3,000 人もの人口が減少しました。

人口同様、世帯数も一時増加しましたが、近年は減少傾向にあり、平成 17 年 4 月 1 日現在 1,987 戸（住民基本台帳）となっています。特に、平成 2 年のダム完成時には、工事関係者の流出等により、前回調査時（昭和 60 年）の約 5 分の 1 にあたる 556 世帯という大きな減少がみられます。

また、西川町の高齢化率（全人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合）は、平成 16 年には 33.5% まで増加しており、これは山形県の 25.0%、全国の 19.5% と比べて非常に高い値となっています。

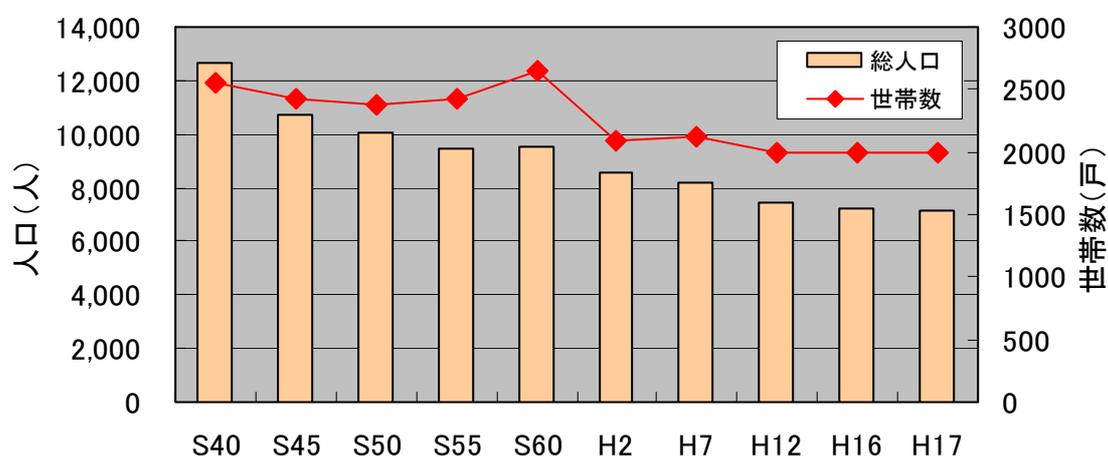


図 2-3 西川町の人口・世帯数の推移（出典：国勢調査より作成）

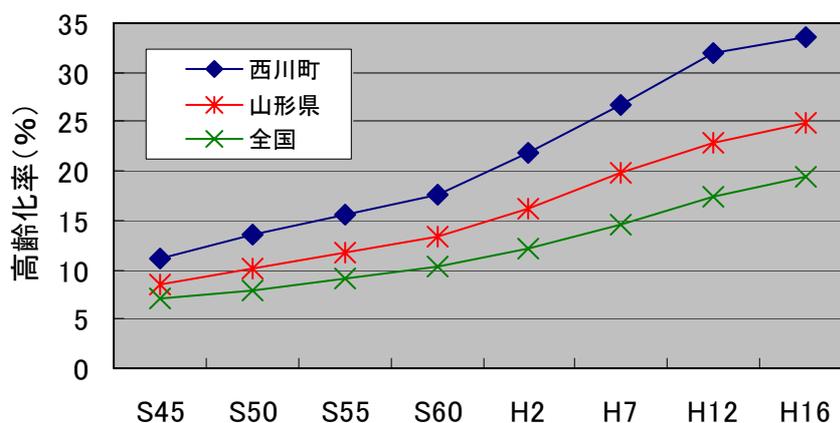


図 2-4 高齢化率の推移（出典：国勢調査より作成）

2.3.2. 人口動態

西川町の社会動態は、一貫して転出者が転入者を上回る社会減となっています。転入・転出ともに昭和45年をピークに急激に減少していましたが、平成2年以降の人口の移動はやや落ち着いています。

自然動態は、昭和60年までは出生者数が死亡者数を上回っているものの、平成2年以降は自然減となっています。

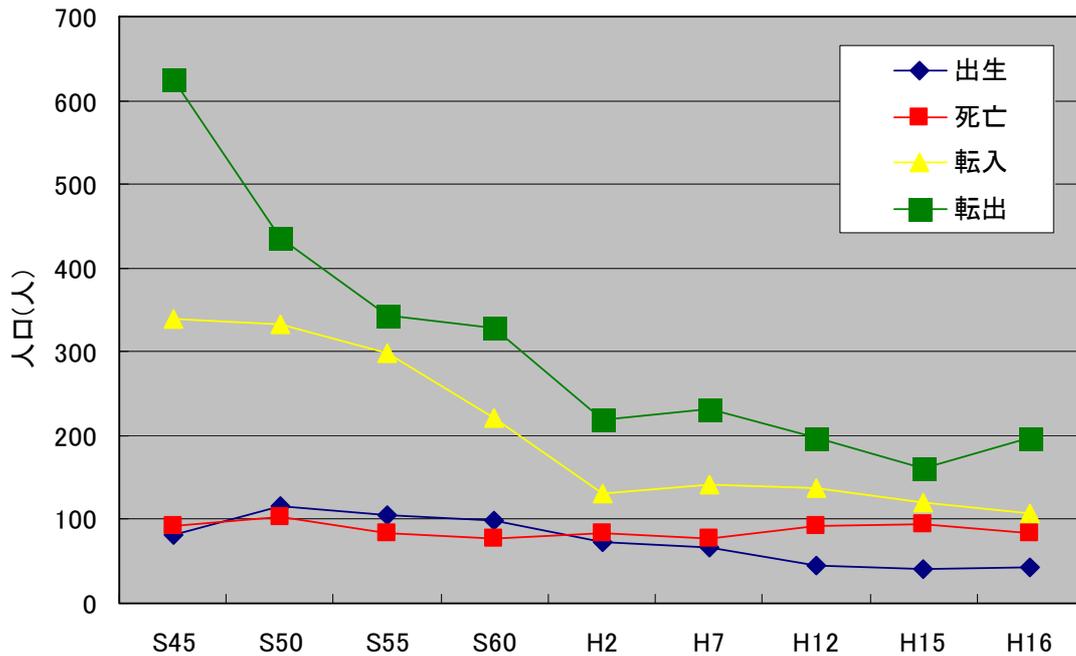


図 2-5 西川町の人口動態の推移 (出典：住民基本台帳より作成)

2.4. 産業

西川町の産業は、戦前は養蚕業が盛んで、県内有数の製糸業地であり、戦後は30年代まで鉱業が活況を呈していました。その後、鉱業が衰退し、昭和40年代から昭和50年代前半にかけて、精密機器、縫製業などの企業誘致が進みましたが、近年、企業の撤退も出ており町内産業の現状は厳しい状況となっています。平成12年の産業別人口をみると、製造業が最も高く全体の26.3%を占め、次いで、サービス業23.1%、建設業13.1%となっています。

表 2-4 産業大分類別就業者（15歳以上）

分類		山形県		西川町	
		(人)	(%)	(人)	(%)
第一次産業	農業	68,925	10.7	335	8.9
	林業	1,275	0.2	61	1.6
	漁業	849	0.1	3	0.1
	小計	71,049	11.1	399	10.6
第二次産業	鉱業	988	0.2	9	0.2
	建設業	73,520	11.4	491	13.1
	製造業	148,820	23.2	986	26.3
	小計	223,328	34.8	1,486	39.6
第三次産業	電気・ガス水道業等	3,028	0.5	21	0.6
	運輸・通信業	27,291	4.2	177	4.7
	卸売業・小売、飲食店	125,858	19.6	566	15.1
	金融・保険	15,213	2.4	46	1.2
	不動産業	2,453	0.4	4	0.1
	サービス業	149,700	23.3	867	23.1
	公務	23,992	3.7	189	5.0
	小計	347,535	54.1	1,870	49.8
分類不能の産業		668	0.1	0	—
総数		642,580	100	3,755	100

出典：国勢調査 H12

表 2-5 誘致企業の立地状況及び生産額

年次	企業名	進出地域
昭和44年	サトウ商事(株)山形工場	吉川
	(株)松本縫製山形工場	間沢
昭和48年	(株)小堀製作所西川工場	海味
	(株)サンアイ	吉川
昭和52年	(株)東北コーオン	間沢
	(ピストン製造(株)西川工場) 現 マーレエンジンコンポーネンツジャパン(株)西川工場	吉川
製品出荷額		
平成15年(1.1~12.31)		
町全体製造品出荷額	1,115,093万円	
誘致企業の製造品出荷額	876,810万円	
誘致企業の占める割合	78.6%	

出典：西川町町勢要覧 2005 資料編・工業統計調査

(1) 第1次産業

① 林業

西川町の民有林の人工林率は38%で山形県平均とほぼ同じですが、8齢級（1齢級は1～5年生）以下の保育、間伐を要する森林が約70%を占め、5ha以下の零細な森林所有者が約80%を占めています。林道密度は16.2haで山形県平均を上回っています。国産材の需要の伸びや、住宅供給における大手メーカーの進出等により、町内の林産物生産は平成15年度では年間生産量として6,000 m³、年間額にして1億800万円で、ピーク時の平成3年の年間生産量25,500 m³、年間額4億5,700万円に比較するとおよそ24%と林業に関する産業は大変厳しい状況にあります。

また、特用林産物といわれる山菜・キノコ等の生産額は、平成3年の2,200万円に対し、平成15年度では5,000万円と伸びており、今後さらに、この山菜・キノコ分野の生産向上が期待されています。

なお、町民を対象としたアンケート調査によると、回答者の約6割が山林を所有し、そのうち、薪・建築資材やキノコ・山菜栽培に利用している方は約5割、残りの半数はほとんど利用していないことが分かります。

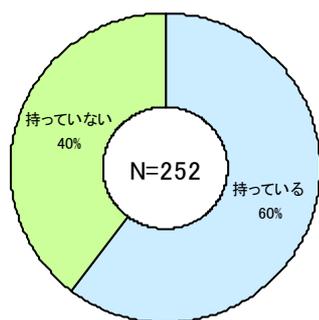


図 2-6 山林の所有状況

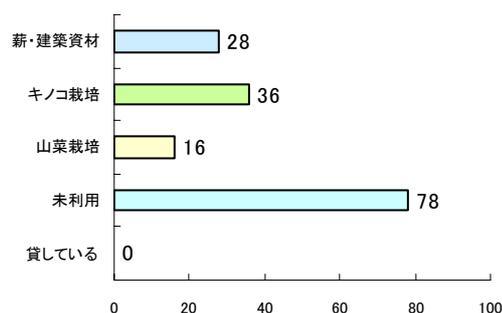


図 2-7 山林の利用状況

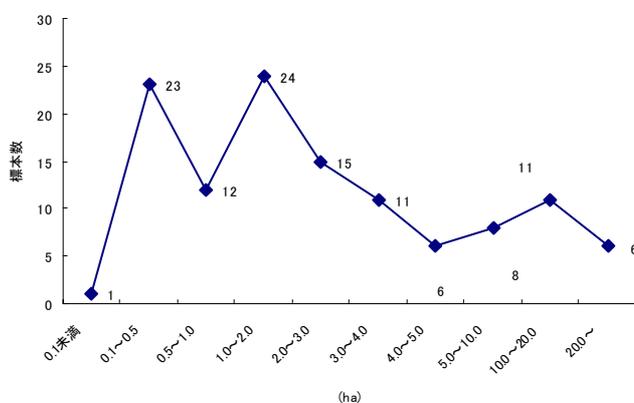


図 2-8 山林所有面積

②農業

平成12年の農業センサス調査によると、総農家数797戸で、うち専業農家が26戸、準専業農家が101戸、副業農家が378戸で、就業構造は自営農業従事者世帯員が631名で、うち65歳以上従事者が448名と70.5%を占めています。さらに、耕作放棄地のある農家数は237戸で耕作放棄地面積は5,536㎡と、農機具利用組合が組織されているものの就農者の減少と高齢化が進み、新たな就農者の確保が困難な状況のため、結果的に遊休農地が拡大しています。

また、田のある農家1戸当り面積は、県平均が171.4㎡に対し、西川町は62.9㎡、畑のある農家1戸当り面積は、県が20.1㎡に対し、西川町が11.2㎡となっています。西川町の総生産額220億3,300万円のうち農業は、4億5,900万円と2.1%の低い構成比率で、生産額が少なくなっています。

さらに、農業の販売額上の上位はコメ、肉用牛、サクランボ、リンゴ、乳牛、切り枝の順に多く、依然として米作中心の農業になっています。

なお、町民を対象としたアンケート調査によると、回答者の約6割が農地を所有しており、そのうち2.0～3.0haの農地を持つ方が最も多いことが分かります。

表 2-6 西川町の自営農業従事者

	H12
自営農業従事者	631
うち65歳以上	445
65歳以上割合	70.5
県平均	50.9

表 2-7 西川町の農家数

	H2	H7	H12
総農家数	962	872	797
うち専業	54	59	36
第1種兼業	31	39	27
第2種兼業	590	475	442
自給的農家	287	299	292
専業農家率	5.6	6.8	4.5
県平均	7.7	8.8	8.0

表 2-8 水田を所有する農家数とその面積

田のある農家	H2	H7	H12
農家数	936	851	490
田の面積(a)	46,442	40,902	30,825
一戸当り面積	49.6	48.1	62.9
県平均	133.7	146.4	171.4

表 2-9 耕作放棄地を所有する農家数とその面積

耕作放棄地	H2	H7	H12
耕作放棄農家	182	234	237
面積(a)	3,165	4,313	5,536
うち田面積(a)	1,371	2,393	3,625
うち畑面積(a)	1,641	1,890	1,692
うち樹園面積(a)	153	-	219

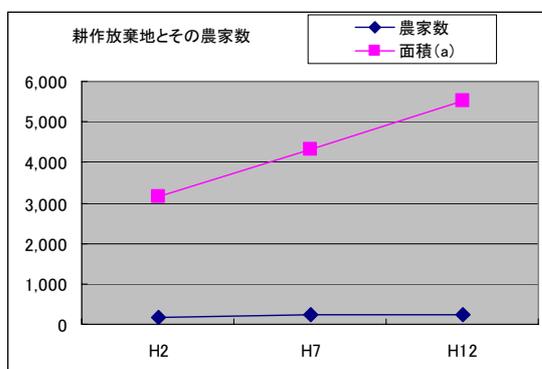


図 2-9 耕作放棄地とその農家数

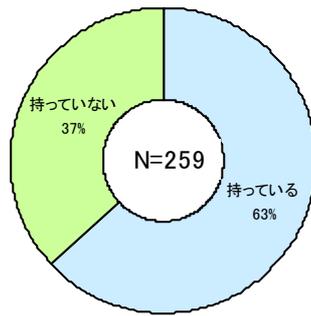


図 2-10 農地の所有状況

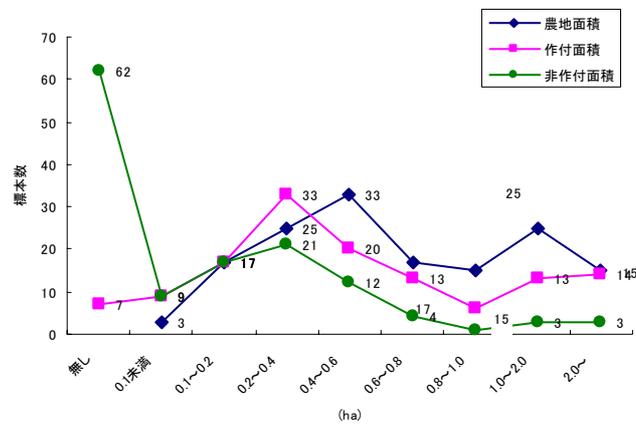


図 2-11 農地の所有面積

(2) 第2次産業

第2次産業は、近年、製造業の工場の撤退が目立つようになり、町内の製品出荷額は、平成8年の184億円と比べて平成15年は111億円と大きく減少しています。企業の撤退は、経済への影響はもとより、景観や町民生活への影響も懸念されています。

また、建設業も、今後の事業展開についての展望を描くことが難しい状況ですが、青壮年層を中心に400人弱程度が従事しています。

さらに、西川町内総生産額の17.0%が製造業、15.7%が建設業と比較的高い割合を占めているため対策が必要となっています。

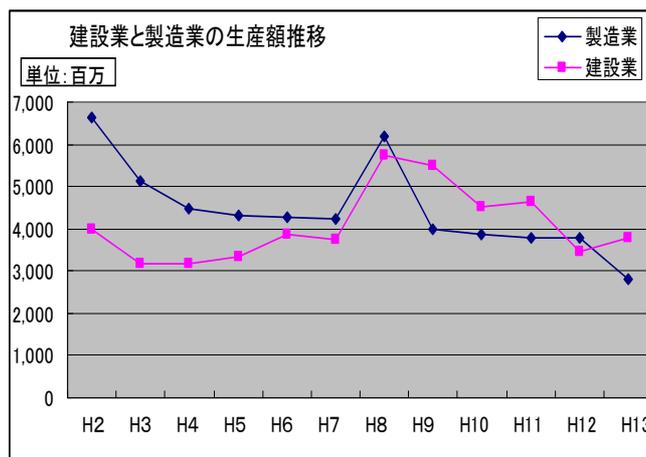


図 2-12 建設業と製造業の生産額推移

(3) 第3次産業

西川町の主力産業となっている観光と商業のサービス業は、生産額から見ると、他の産業が低迷している中で、フィッシングやトレッキング、宿泊体験学習などのニーズの増加により横ばいと健闘しています。また、観光業は、第1次産業と第2次産業が重要な基盤でもあり、その両者を繋ぐ役割も併せ持っているため、西川町の実産額に対する割合が高くなっています。

表 2-10 西川町の総生産額と業種構成比 (単位:百万円、率は%)

	総生産額	農業	占有率	製造業	占有率	建設業	占有率	サービス業	占有率
H2	22,861	778	3.4	6,637	29.03	3,988	17.44	3,229	14.12
H3	21,809	687	3.15	5,129	23.52	3,177	14.57	3,041	13.94
H4	20,800	703	3.38	4,476	21.52	3,182	15.3	3,127	15.03
H5	21,036	528	2.51	4,310	20.49	3,350	15.93	3,199	15.21
H6	21,744	712	3.27	4,267	19.62	3,852	17.72	3,197	14.7
H7	22,086	572	2.59	4,225	19.13	3,757	17.01	3,291	14.9
H8	26,176	594	2.27	6,175	23.59	5,749	21.96	3,389	12.95
H9	24,280	514	2.12	3,971	16.36	5,481	22.57	3,444	14.18
H10	23,172	526	2.27	3,846	16.6	4,512	19.47	3,552	15.33
H11	22,967	501	2.18	3,767	16.4	4,648	20.24	3,564	15.52
H12	22,033	459	2.08	3,774	17.13	3,449	15.65	3,690	16.75
H13	21,433	393	1.83	2,808	13.1	3,794	17.7	3,653	17.04

2.5. 交通

西川町に至る主な広域交通網は、航空、鉄道、道路利用によるアクセスがあります。

2.5.1. 航空

山形空港が昭和 39 年に東根市に開港し、当時は、山形～東京便が開設されていました。その後、昭和 54 年に大阪（伊丹）便と札幌便、平成 4 年に名古屋便、平成 7 年に大阪（関西）便、平成 10 年に函館便（季節運行）が開設されるなど、全国とのアクセスが強化されてきました。山形空港から西川町（役場）までは、車を使って約 30 分の距離となっています。

2.5.2. 鉄道

JR 奥羽本線が上市市～山形市～尾花沢市等を南北に結び、平成 4 年に山形新幹線“つばさ”が福島～山形間に開業し、さらに、平成 11 年に山形～新庄間が延伸開業し、東京からのアクセスが向上しました。

西川町方面には、JR 左沢線が山形市～大江町まで東西に運行しており、寒河江駅から路線バス等により西川町に至るルートがあります。

2.5.3. 道路

西川町の道路は、昭和 50 年代に月山花笠ラインが開通し、庄内地域とのアクセスが向上するとともに、町内では水沢バイパスの開通で国道 112 号全線のバイパス化が完了しました。また、除雪体制も整備され、冬期の通行も確保されました。

昭和 60 年代に入ると、大井沢の要望であった大井沢トンネルが開通し、大江町との交流が促進されるとともに、産業道路としても活用されています。また、大江・西川線の完成により、大井沢の利便性がより向上しました。

平成に入ると、平成 10 年、11 年に山形自動車道が相次いで開通し、町中心部に西川 IC、寒河江ダム（月山湖）に近接して月山 IC が整備され、これまでの定期バスのほか、鶴岡・酒田～山形・仙台への高速バスも運行が開始され、仙台や山形市への移動時間が大幅に短縮されました。

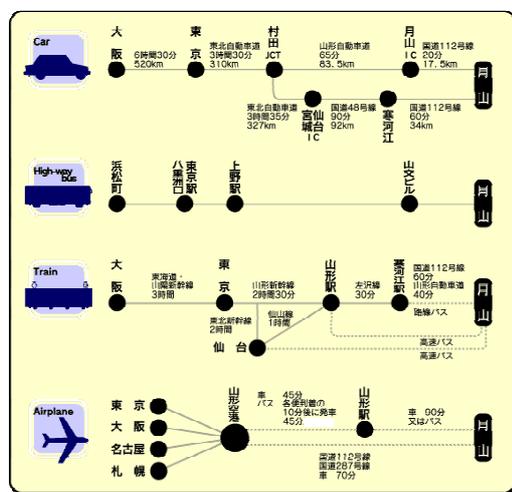


図 2-13 西川町へのアクセス路線図（出典：西川町 HP）

第2章 西川町の地域特性

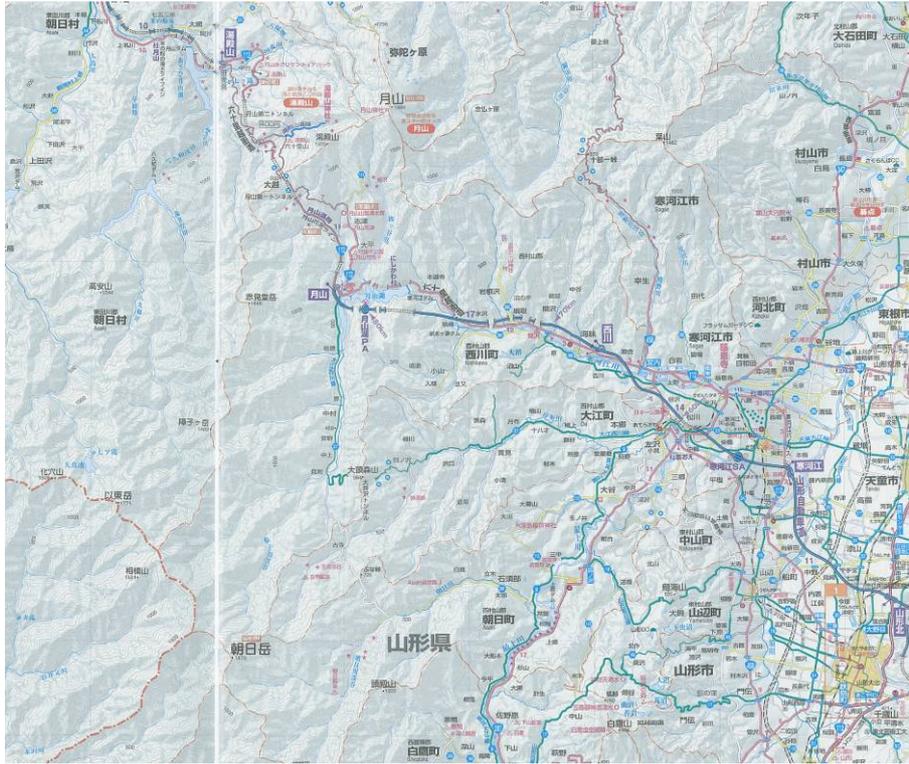


図 2-14 西川町周辺交通網図 (出典：ライトマップル東北道路地図)

表 2-11 西川町周辺交通網年表 (◎山形空港、☆山形新幹線、□道路)

年	概要
昭和 39 年	◎山形空港開港 (東根市)、山形～東京間開設
昭和 41 年	□志津～姥沢間月山道完成
昭和 45 年	□横岫トンネル開通
昭和 48 年	□本道寺バイパス、風吹橋開通
昭和 50 年	□国道 112 号月山第 1 トンネル貫通
昭和 51 年	□国道 112 号志津トンネル貫通
昭和 54 年	◎山形空港、大阪 (伊丹) 便、札幌便開設 □寒河江ダム付替道路 (風吹～砂子関、1,500m) 開通
昭和 55 年	□国道 112 号睦合バイパス開通
昭和 56 年	□砂子関～湯殿山口工事完成により月山新道「月山花笠ライン」開通
昭和 57 年	□町道志津月山線全線舗装完成
昭和 58 年	□国道 112 号水沢バイパス開通 (町内全線バイパス化) □主要地方道大江・西川線ダム付替道一部供用開始
昭和 59 年	□主要地方道新庄・大江線の上野大橋開通
昭和 61 年	□大井沢トンネル貫通
昭和 63 年	□月山大橋完成
平成元年	□主要地方道大江・西川線大井沢トンネル開通
平成 3 年	□山形自動車道村田～寒河江間開通
平成 4 年	◎山形空港、名古屋便開設、☆山形新幹線“つばさ”開業 □主要地方道大江・西川線 (原・沼山地内) 竣工式
平成 7 年	◎山形空港、大阪 (関西) 便開設
平成 10 年	◎山形空港、函館便開設 (季節運航)
平成 11 年	☆山形新幹線 (山形～新庄間) 延伸開業 □山形自動車道西川～月山間開通

出典：H14 寒河江ダムと地域の変遷に関する調査業務報告書、山形空港 HP 他資料

2.6. 自然資源

2.6.1. 西川町の自然資源

西川町には、磐梯朝日国立公園（出羽三山朝日地区）が位置しており、この国立公園にある月山と朝日連峰の山麓には、約 300 種類ほどの高山植物群の他、貴重なブナの原生林が残っています。また、朝日連峰と月山のブナの森林に蓄えられた水が注ぎ込む寒河江川は、平成 7 年には清流日本一に選ばれています。

これらの自然資源は、「水源の森百選」「水の郷百選」「名水百選」等に選定されており、数多くの人々が豊かな自然を求めて来訪しています。

表 2-12 日本の百選等

選定の種類	対 象
名水百選（環境省）	月山山麓湧水群
水の郷百選（国土交通省）	水をシンボルに「自然と共存する郷」
水源の森百選（林野庁）	月山行人清水の森
むらやまの湧水 30 選 （山形県村山総合支庁）	ネイチャーセンターの湧水 ぶなの森
21 世紀に残したい日本の自然百選 （森林文化協会・朝日新聞社）	寒河江川・朝日川上流のブナ林
日本百名山（深田久弥選）	月山

出典：日本の 100 選データブック、各指定主体 HP



出典：環境省名水百選 HP

2.6.2. 自然環境等に関わる法的規制

西川町の西側では、月山～朝日岳にかけて磐梯朝日国立公園が指定されています。本公園では、優れた自然風景地の保護とともに、自然のふれあいを図ることを目的として、遊歩道などが計画的に整備され、快適かつ適正な利用が推進されています。

また、根子川上流には原生流域（面積 1,000ha 以上にわたり、人工構造物の存在や森林伐採等、人為の影響の見られない流域）が存在しています。

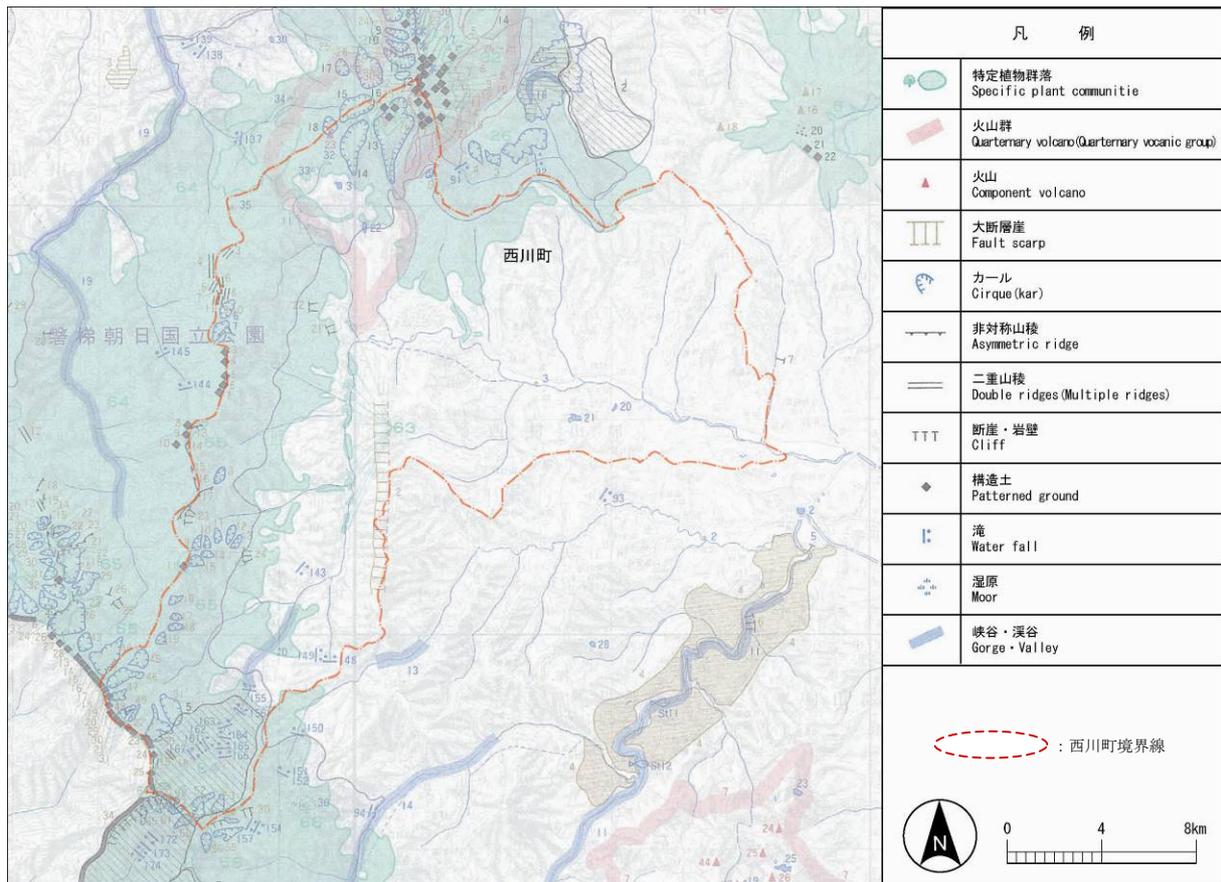


図 2-15 磐梯朝日国立公園位置図（出典：山形県自然環境情報図に西川町境界線を追加）

